

# 箱崎 62

—箱崎遺跡第100次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1427集

2021

福岡市教育委員会



# 箱崎 62

—箱崎遺跡第100次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1427集



調査番号 1925

遺跡略号 HKZ-100

2021

福岡市教育委員会



## 序

古くから玄界灘を介して大陸との交流が絶え間なくおこなわれ、文化交流の門戸として発展を遂げてきた福岡市には、歴史的遺産が数多く残されています。近年の著しい都市化により失われるこれらの文化財を後世に伝えることは、本市の重要な責務です。

本書は、共同住宅建設に伴う箱崎遺跡第100次発掘調査について報告するものです。この調査では中世を中心とした土坑などの遺構を検出するとともに、中世から近世にかけての遺物が多数出土しました。これらは地域の歴史の解明のためにも重要な資料となるものです。今後、本書が文化財保護に対する理解と認識を深める一助になるとともに、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、土地所有者様をはじめとする関係者の方々には発掘調査から本書の作成に至るまでご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

令和3年3月25日

福岡市教育委員会  
教育長 星子 明夫

## 例　　言

1. 本書は東区馬出5丁目365番・369番地内の共同住宅建設に先立って福岡市教育委員会が実施した箱崎遺跡第100次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査と整理報告は三浦悠葵が担当した。
3. 遺構・遺物の実測は三浦が行った。
4. 遺構・遺物の撮影、製図は三浦が行った。
5. 本書の編集・執筆は三浦が行った。
6. 本書で示す座標は世界測地系を使用している。
7. 遺構の略号は、以下の通りである。  
SK：土坑 SP：柱穴等
8. 捜査の縮尺は、各図に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺は全て任意である。
9. 貿易陶磁器の時期については、主として次の文献に基づいて検討した。  
山本信夫 2000『大宰府条坊XV～陶磁器分類編～』太宰府市教育委員会
10. 各調査の出土遺物や実測図、写真などの記録類は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵、保管する予定であるので、広く活用されたい。

遺跡名	箱崎遺跡	遺跡登録番号	2639	分布地図番号	034 箱崎
次数	100	調査番号	1925	略号	HKZ-100
調査面積	101.5m <sup>2</sup>	期間	2019年6月17日～2019年7月30日		
調査地	福岡市東区馬出5丁目365番・369番				

## 目 次

I.	はじめ	1
1.	調査に至る経緯	1
2.	調査の組織	1
II.	遺跡の環境と立地	3
III.	調査の記録	5
1.	調査の方法と経緯	5
2.	調査の概要	5
3.	遺構と遺物	7
1)	土坑	7
2)	その他の遺物	11
IV.	まとめ	14

## 挿図目次

第1図 遺跡分布図 (1/25,000) .....	2
第2図 周辺調査地 (1/5,000) .....	3
第3図 調査区配置図 (1/500) .....	4
第4図 基本層序 .....	5
第5図 遺構配置図 (1/80) .....	6
第6図 SK0015・0028 (1/40) およびSK0028出土遺物 (1/3) .....	7
第7図 SK0031・0032 (1/40) および出土遺物 (1/3) .....	8
第8図 SK0045 (1/40) .....	9
第9図 SK0058・SK0059 (1/40) .....	10
第10図 SK0058・SK0059出土遺物 (1/3) .....	11
第11図 SK0115・SK0118・SK0119 (1/40) およびSK0115・0118出土遺物 (1/3) .....	12
第12図 その他の遺物 (26 ~ 47 1/3 48・49 1/2) .....	13

## 図版目次

P L. 1	(1) 2区全景 (西から)
	(2) 1区全景 (西から)
P L. 2	(1) SK0015土層断面 (西から)
	(2) SK0032土層断面 (西から)
	(3) SK0058 (北から)
	(4) SK0059 (北東から)
	(5) SK0045 (西から)
	(6) SK0015・0032 (南から)
	(7) 遺物①
P L. 3	(1) 遺物②
P L. 4	(1) 遺物③

# I. はじめに

## 1. 調査に至る経緯

福岡市教育委員会は、同市東区馬出5丁目365番・369番における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会を平成31年4月19日付で受理した（事前審査番号2019-2-92）。

申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である箱崎遺跡に含まれていることから、埋蔵文化財課事前審査係では遺構の有無の確認が必要と判断した。2019年5月16日に確認調査を実施したところ、現地表面下55cmで遺構が確認されたことから、遺構の保全等に関して申請者と協議を行った。

その結果、埋蔵文化財への影響が回避できないことから、建物建設部分について記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。

その後、令和元年6月14日付で個人を委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、同年6月17日から発掘調査を、翌令和2年度に資料整理および報告書作成をおこなうこととなった。

## 2. 調査の組織

調査委託：個人

調査主体：福岡市教育委員会

（発掘調査：令和元年度・資料整理：令和2年度）

調査総括：文化財活用部埋蔵文化財課 課長 菅波正人（元・2年度）  
同課調査第2係長 大塚紀宜（元年度）  
藏富士寛（2年度）

事前審査： 同課事前審査係長 本田浩二郎（元・2年度）  
同課事前審査係主任文化財主事 田上勇一郎（元・2年度）  
同課事前審査係文化財主事 朝岡俊也（元年度）  
山本晃平（2年度）

調査担当： 同課調査第2係文化財主事 三浦悠葵

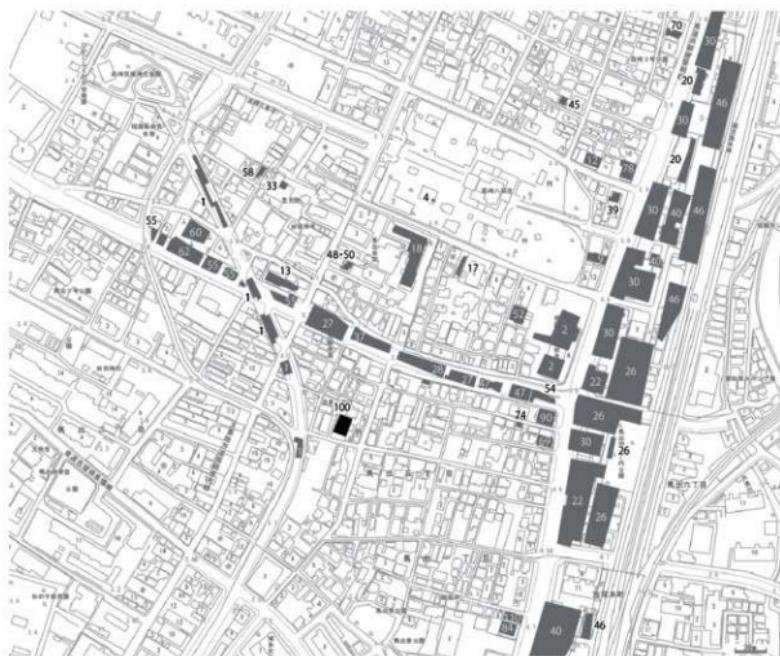
庶務：文化財活用課 管理調整係長 藤克己（元年度）  
大森秋子（2年度）  
管理調整係 松原加奈枝（元・2年度）



1. 箱崎遺跡      2. 吉塚本町遺跡      3. 吉塚祝町遺跡      4. 堅粕遺跡      5. 博多遺跡群  
 6. 吉塚遺跡      7. 東比恵三丁目遺跡

第1図 遺跡分布図 (1 /25,000)

## II. 遺跡の環境と立地



や周溝墓といった遺構が確認されており、40次調査では葺石をともなう5世紀代の円墳が検出された。当時の遺構はいずれも砂丘の東側斜面上に営まれる。10世紀前半になると穗波郡大分宮からの遷座によって菅崎宮が創建される。同宮の南東側に遺構が展開し、2次、22次、26次、30次、40次、54次調査において同時期の遺構が確認されている。11世紀代には前代よりやや拡大した範囲で遺構が確認されるようになり、輸入陶磁器の出土が目立つようになる。12世紀中頃には砂丘の西側斜面まで遺跡が拡大し、12世紀後半には箱崎遺跡の広範囲に遺跡が分布するようになる。13世紀以降は砂丘の全域に遺跡が展開し、特に西側の利用が活発になる。また、遺跡北西側の11次、21次、24次、31次、51次、57次調査では13世紀後半代の焼土層が確認されており、1274年の文永の役との関連が指摘されている。

100次調査地点は箱崎遺跡の南西側、菅崎宮から約300m南西側に位置し、東隣には白山神社が鎮座する。推定される砂丘の鞍部周辺に立地しており、周辺でおこなわれた1次、27次、37次調査では11世紀から近世に至るまでの遺物と遺構が検出されている。



第3図 調査区配置図（1/500）

### III. 調査の記録

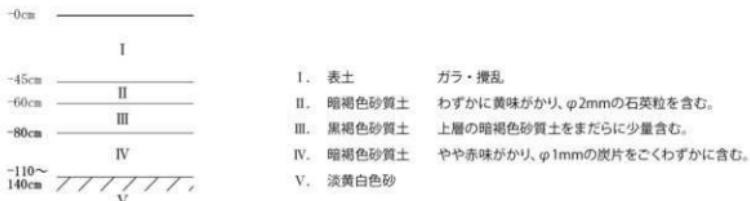
#### 1. 調査の方法と経緯

調査区は廃土処理の都合上、まず調査区全面の客土を重機で除去し、廃土の搬出をおこなったのち、第3図のように南北に分け、南側を1区、北側を2区として、廃土置き場を確保しつつ調査をおこなった。6月17日から18日に機材搬入と調査区全面の表土剥ぎ・廃土の搬出を行い、7月7日まで1区を精査した。8日に重機で廃土の移動と反転をおこない、7月28日まで2区の精査をおこなった。7月29・30日に後片付けと機材搬出を行い、すべての調査を終了した。調査は後述するV層の淡黄白色砂層上面までを重機で掘削し、以下の掘削は人力で行った。

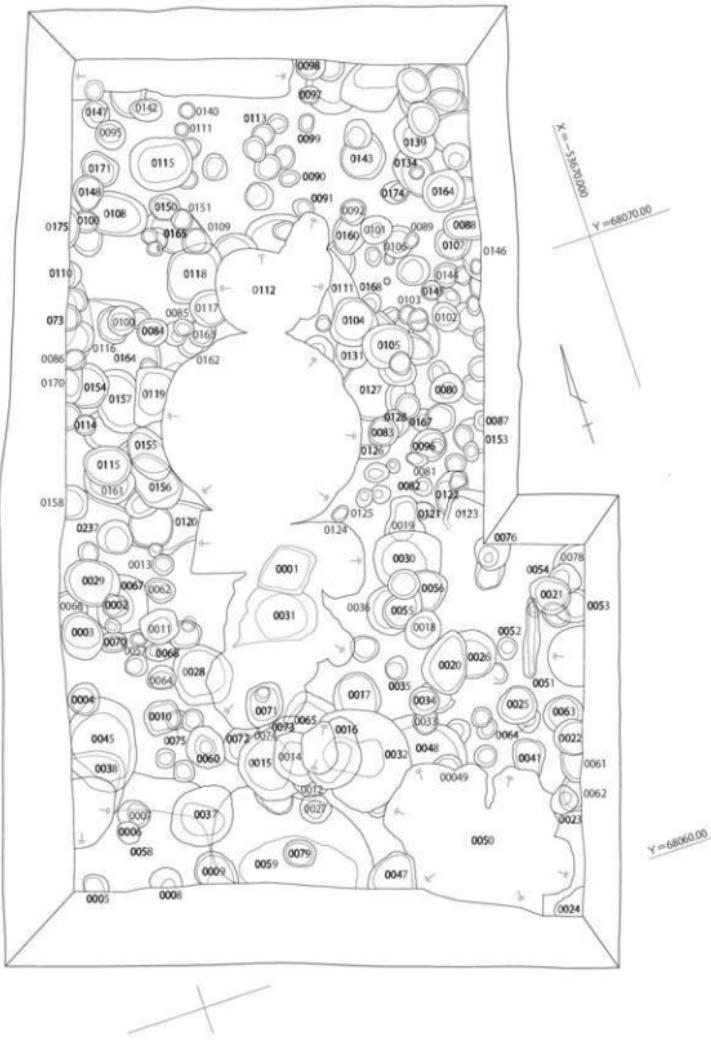
#### 2. 調査の概要

第100次調査区は箱崎遺跡の南西部に位置し、宮崎宮本殿をピークとする砂丘の鞍部の西側落ち部、宮崎宮本殿から直線距離で南西約300mの地点に立地する。周辺では西側道路に1次調査地点、北側に27次地点、37次調査地点が所在する。現況は平坦で、現地表は約3.9mを測る。I層は擾乱と現代の客土からなり、地表下約45cmでII層の暗褐色砂質土、60cmでIII層の黒褐色砂質土、80cmでIV層の近世の遺物を含むやや赤味を帯びた暗褐色砂質土、110～140cmで基盤層であるV層の淡黄白色砂層となり、その上面で遺構を検出した。

主な遺構は中世の柱穴や土坑などである。遺物は土師器や陶磁器を中心にコンテナケース7箱ほど出土した。



第4図 基本層序



第5図 遺構配置図 (1/80)

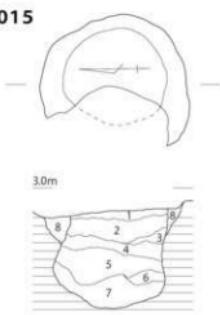
### 3. 遺構と遺物

#### 1) 土坑

##### SK0015 (第6図)

1区南側中央に位置し、SK0012・SK0014・SK0016に切られる。平面形は直径110cmの不整形な円形、検出面から底面までの深さは85cmを測る。遺物は土師器、白磁、口禿の青磁小片などが出土した。遺構の時期は13世紀後半から14世紀前半ごろ。

##### SK0015



1. 暗褐色砂質土  $\phi 5\text{ mm}$ 程度の炭粒を少数含む。
2. 暗褐色砂質土 1層より黒味強く、褐色砂をシミ状に少数含む。
3. 黒褐色砂質土 褐色砂をシミ状に少数含む。
4. 暗褐色砂質土 やや苦味強く、黒褐色砂質土をわずかに含む。
5. 暗褐色砂質土 4層よりわずかに赤味を帯びる。  
褐色砂をシミ状に少数含む。
6. 暗褐色砂質土 褐味強く、褐色砂を少数含む。
7. 暗褐色砂質土 黒味強く、褐色砂を全体に少数含む。
8. 黄白色砂  $\phi 2\text{~}3\text{ cm}$ 程度の暗褐色砂質土塊を少数含む。

##### SK0028 (第6図)

1区中央西側に位置し、SP0069と攪乱に切られる。平面形は直径100cmの不整形な円形、検出面から底面までの深さは82cmを測る。遺物は土師皿、白磁、青磁などが出土した。遺構の時期は16世紀ごろ。

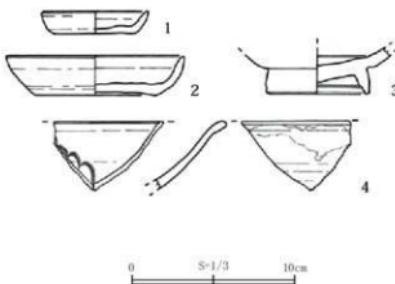
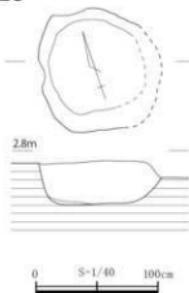
##### 出土遺物 (第6図)

1・2は土師器。1は皿で口径5.5cm、底径4.5cm、器高1.4cmを測る。底部は糸切り。2は壺で復元口径11.0cm、復元底径7.4cm、器高2.4cmを測る。底部は糸切り。3・4は白磁碗。3は体部から高台にかけて残存し、復元高台径6.4cmを測る。内面見込みに段を持つ。白磁碗V類。4は口縁部のみ残存する。内面に窓による文様が施される。

##### SK0031 (第7図)

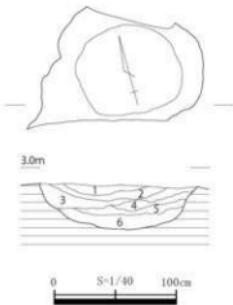
1区北側中央に位置し、攪乱により大きく削平される。平面形は不整形な楕円形とみられ、検出面から底面までの深さは35cmを測る。遺物は土師皿、瓦器椀、椀などが出土した。

##### SK0028



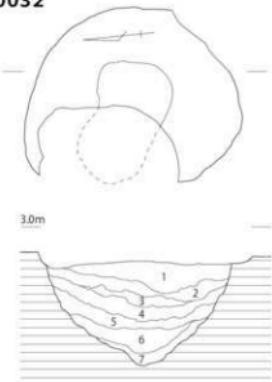
第6図 SK0015・0028 (1/40) およびSK0028出土遺物 (1/3)

### SK0031



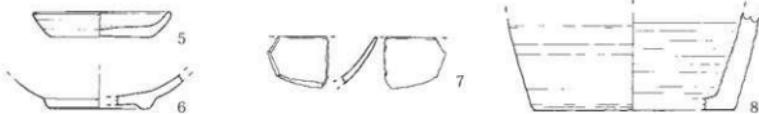
1. 灰褐色シルト 少量の灰褐色粘質土、φ1～5mmの石英粒を含む。
2. 灰褐色シルト 1より褐色深く、0.5～1mの深度に少量含む。
3. 灰褐色砂質シルト φ1～2cmのジミ状に褐色砂を含む。
4. 灰褐色砂質シルト 褐色砂をマーブル状に多量に含む。
5. 灰褐色砂質シルト 褐色砂を横方向の層状に少量。全体に0.5～1mの石英粒を多量に含む。
6. 青灰色砂質シルト 褐色砂を中量含む。

### SK0032

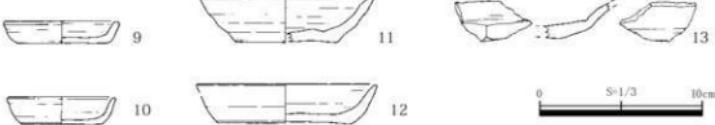


1. 黒褐色砂質シルト 灰褐色シルトをまだらに中量含む。
2. 灰褐色砂質シルト 灰褐色砂質シルトを帶状に含む。
3. 灰褐色砂質シルト 2層よりおもななく、灰褐色シルトを少量含む。
4. 黑褐色砂質シルト φ1mの灰褐色砂質シルトブロックをシミ状に含む。
5. 褐色砂 黑褐色砂をφ1～2cmの断続状に少量含む。
6. 褐色砂 灰褐色砂を全体に少量含む。
7. 褐色砂 6層より色調が明るい。

### SK0031



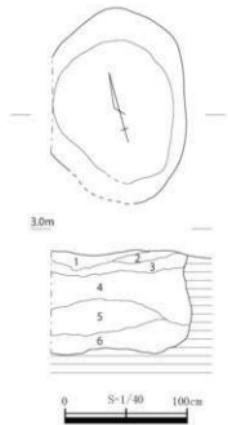
### SK0032



第7図 SK0031・0032(1/40) および出土遺物(1/3)

#### 出土遺物(第7図)

5は土師皿。復元口径9.0cm、復元底径7.4cm、器高1.3cmを測る。底部は糸切り。6は瓦器椀。体部から底部にかけて残存し、復元底径6.2cmを測る。7は陶器の椀。白化粧土を刷毛塗して文様とした刷毛目文を描く。8は陶器の壺片。復元底径12.4cmを測る。



1. 暗褐色砂質土 やや層理状に黒褐色砂、粒状に褐色砂を含む。  
 2. 暗褐色砂質土 1層より黒味が強い。  
 3. 黒褐色砂質土 褐色砂をわずかに含む。  
 4. 暗褐色砂質土 褐色砂、黒褐色砂を少量含み、横方向に堆積する。  
 5. 暗褐色砂質土 深り味が強く、ごくわずかに粘性を帯びる。  
 6. 黑褐色砂質土 喀褐色砂を多量に含む。層理をなさない。  
 7. 褐色砂質土 全体的に汚れており、黒褐色砂を粒状に少量含む。

第8図 SK0045 (1/40)

SK0032 (第7図)  
 1区南側中央に位置し、SK0016に切られる。平面形は長径167cmの楕円形、検出面から底面までの深さは90cmを測る。遺物は土師皿、青磁などが出土した。遺構の時期は15世紀ごろ。

#### 出土遺物（第7図）

9・10は土師皿、11・12は土師器の壺。9は復元口径7.0cm、復元底径5.4cm、器高1.3cmを測る。底部は糸切り。10は復元口径6.6cm、復元底径5.0cm、器高1.7cmを測る。底部は糸切り。11は復元口径15.0cm、復元底径10.3cm、器高2.8cmを測る。底部は糸切り。12は復元口径10.8cm、底径8.2cm、器高2.4cmを測る。底部は糸切り。13は同安窯系青磁皿。体部のみ残存し、内面には櫛点描文を施す。皿I・2類。

#### SK0045 (第8図)

1区西端に位置し、SP0004に切られ、SK0038を切る。平面形は長径157cmの楕円形、検出面から底面までの深さは83cmを測る。遺物は須恵器、瓦器椀、白磁、瓦片などが出土した。遺構の時期は11世紀後半から12世紀前半ごろか。

#### SK0058 (第9図)

1区南西端に位置し、SK0037、SK0045、

SK0059等に切られる大型の土坑である。多数の遺構に切られ、また調査区端にあることから平面形は明確ではないが、不整形な円形と考えられる。検出面から底面までの深さは172cmを測る。遺物は須恵器、土師皿、白磁、瓦などが出土した。

#### 出土遺物（第10図）

14は白磁皿。復元口径10.0cm、復元底径5.0cm、器高1.6cmを測る。内面見込みは輪状に焼き取る。皿III類。15は瓦器椀。体部から底部にかけて残存し、復元底径6.0cmを測る。16は白磁の蓋。口径6.1cm、器高3.6cmを測る。17は白磁。底部のみ残存し、復元底径9.2cmを測る。

#### SK0059 (第9図)

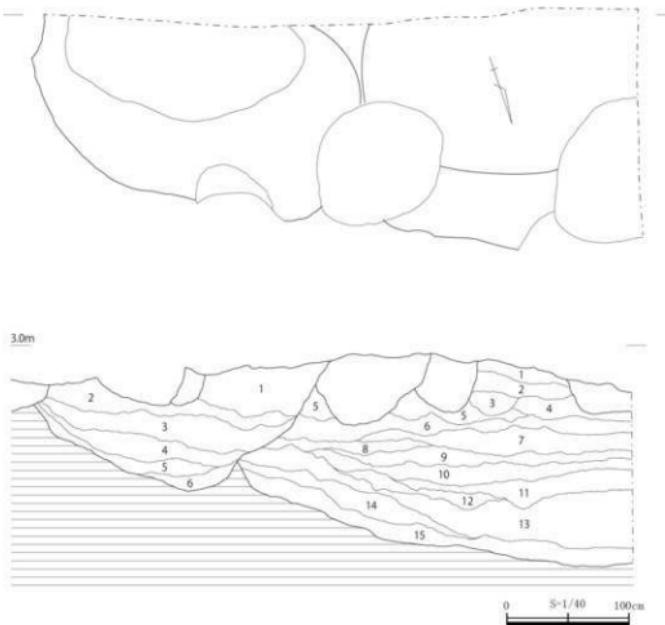
1区南西端に位置し、SK0037、SK0015、SK0047等に切られ、SK0058を切る大型の土坑である。平面形は不整形な円形と考えられる。検出面から底面までの深さは100cmを測る。遺物は瓦器椀、白磁、青磁、瓦などが出土した。遺構の時期は14世紀ごろ。

#### 出土遺物（第10図）

18は白磁椀。体部から底部にかけて残存し、復元底径4.6cmを測る。体部内面に篦描文を施し、見込みに沈線状の段を有する。白磁椀VII類。19は龍泉窯系青磁椀。口縁部のみ残存する。内面に飛雲文を施す。椀I類。20は瓦。残存長辺12.5cm、残存短辺6.3cm、厚さ1.3cmを測る。凹面に布目痕、凸面に繩目叩きをもつ。

SK0058

SK0059



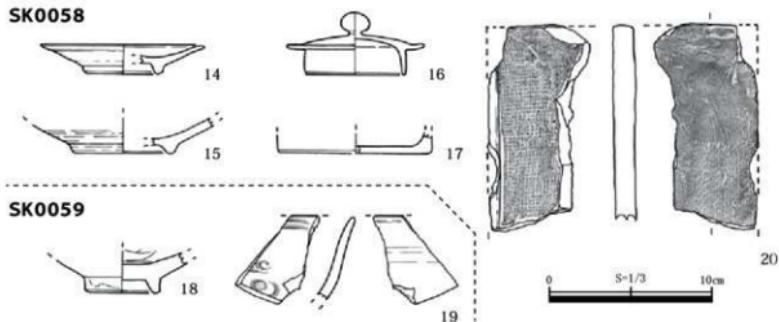
SK0058

1. 明褐色砂質土 黒褐色砂質土をφ1cm程度のシミ状に少量。  
暗黄色砂を个体に箇所に含む。ごくわずかにシルト質。
2. 明褐色砂質土 1層よりやや色調明るく、黄白色砂を全体に少量含む。
3. 明褐色砂質土 1層と同様。黒褐色砂質土をφ1cm程度のシミ状に少量。  
暗黄色~黄白色砂をφ1cmのシミ状に少量含む。東側は  
ごくわずかにシルト質。
4. 明褐色砂質土 暗黄色を全体に中量。黄白色砂をφ1cm程度のシミ状に  
中量含む。
5. 明褐色砂質土 基盤層の黄白色砂を主体とするが、全体にうすく明褐色  
砂質土を含む。
6. 黄色砂 基盤層の黄白色砂がやや汚れたもの

SK0059

1. 暗黄褐色砂質土 1層よりやや灰褐色が強い。
  2. 暗黄褐色砂質土
  3. 暗褐色砂質土
  4. 暗黄褐色砂質土
  5. 暗褐色砂質土
  6. 暗褐色砂質土
  7. 暗褐色砂質土
  8. 暗褐色砂質土
  9. 暗褐色砂質土
  10. 暗褐色砂質土
  11. 暗褐色砂質土
  12. 暗褐色砂質土
  13. 暗褐色砂質土
  14. 暗褐色砂質土
  15. 淡褐色砂
- 部分的に暗黄褐色砂質土を中量含む。
- 7層よりやや黒味が強い。  
黄白色砂を多量に含む。  
黄白色砂、暗黄褐色砂質土を少量含む。  
多量の黄白色砂をまだらに含む。  
暗褐色砂質土をφ1cm程度のシミ状に少量含む。  
中量の黄白色砂を薄くまだらに含む。  
鉄分の鉻化が著しく。黄白色砂を多量に含む。

第9図 SK0058・SK0059 (1/40)



第10図 SK0058・SK0059出土遺物（1/3）

#### SK0115（第11図）

2区北側に位置する。平面形は長径103cm、短径87cmの楕円形、検出面から底面までの深さは40cmを測る。遺物は土師皿、白磁、青磁などが出土した。遺構の時期は12世紀中頃から後半。

##### 出土遺物（第11図）

21は白磁の耳壺。つまみ部分とその周辺の体部のみ残存する。体部はつまみの下に1条の沈線がめぐる。22は龍泉窯系青磁椀。口縁から体部にかけて残存する。復元口径17.0cm。口縁端部に輪花を有し、体部内面に飛雲文を施す。椀I類。

#### SK0118（第11図）

2区中央北側に位置し、SPO117、SPO109に切られ、西側は攪乱により消失する。平面形は直径98cmの隅丸方形、検出面から底面までの深さは41cmを測る。遺物は土師皿、白磁、青磁などが出土した。遺構の時期は12世紀中頃から後半。

##### 出土遺物（第11図）

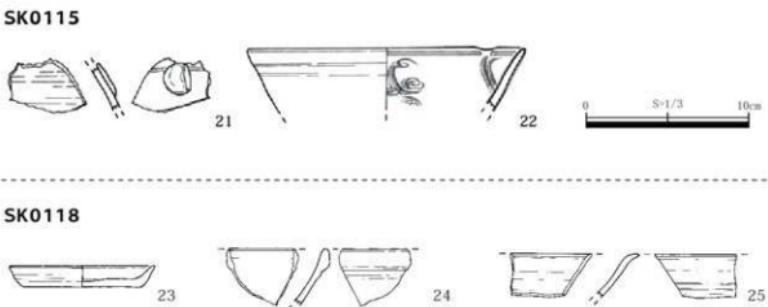
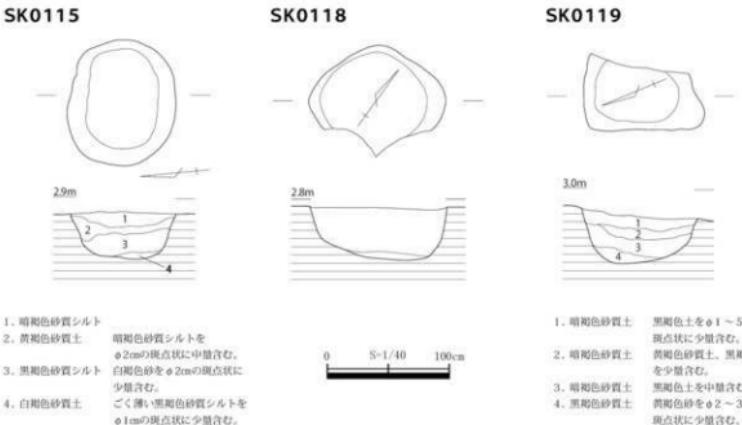
23は土師皿。復元口径9.0cm、復元底径7.4cm、器高1.3cmを測る。底部は糸切り。24・25は白磁椀。24は玉縁口縁で口縁部のみ残存する。白磁椀IV類。25は口縁部のみ残存する。口縁端部は外反し、端部内面に稜をもつ。

#### SK0119（第11図）

2区南西側に位置し、西半は近世の瓦井戸により消失する。平面形は長辺100cmの隅丸方形、検出面から底面までの深さは64cmを測る。遺物は土師皿、白磁の小片などが出土した。遺構の時期は12世紀頃か。

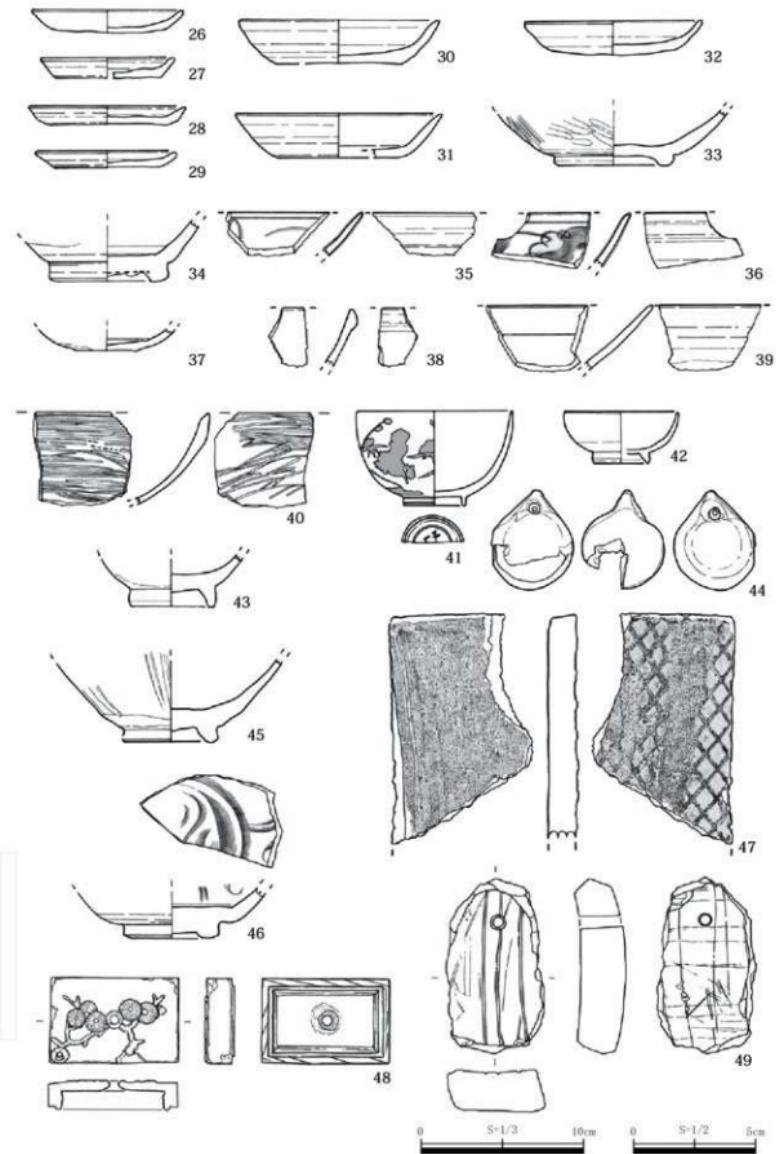
#### 2) その他の遺物

26～29は土師皿、30・31は土師器の壊。26はSPO061・SPO062検出時に出土した。口径4.7cm、器高1.3cmを測る。底部は丸底で内部に炭が付着する。27はSPO127から出土した。復元口径8.2cm、復元底径6.4cm、器高1.4cmを測る。底部は糸切り。28はSPO155から出土した。口径9.6cm、底径7.4cm、器高1.2cmを測る。底部は糸切り。29はSPO156から出土した。口径8.7cm、底径6.4cm、器高1.0cmを測る。底部は糸切り。30はSPO016から出土した。復元口径12.2cm、復元底径7.8cm、器高2.7cm



第11図 SK0115・SK0118・SK0119(1/40) およびSK0115・0118出土遺物(1/3)

を測る。底部は糸切り。31はSP0048から出土した。復元口径12.6cm、復元底径7.4cm、器高2.7cmを測る。底部は糸切り。32はSP0022から出土した瓦器皿。口径10.8cm、底径8.6cm、器高2.1cmを測る。内面はナデ、外表面は体部上半をミガキ、底部はケズリによって調整し丸底。33はSP0165から出土した瓦器椀。体部から底部にかけて残存し、外面に丁寧なミガキを施す。復元底径6.8cmを測る。34はSP0170から出土した白磁椀。体部から底部にかけて残存する。底径7.3cmを測る。見込みは釉を輪状に焼き取る。35・36は青磁椀。35はSP0041から出土した。体部内面に片彫文を施す。龍泉窯系青磁椀I類。36はSP0173から出土した。体部内面に片彫文と柳目文を施す。龍泉窯系青磁椀I類。37~39は白磁。37はSP0048から出土した白磁皿。体部から底部にかけて残存し、復元底径3.8cmを測る。内面見込みに段を有する。白磁皿V類。38はSP0048から出土した白磁椀。口縁部のみ残存する。白磁椀IV類。39はSP0173から出土した白磁椀。口縁部のみ残存する。体部上位に1条



第12図 その他の遺物 (26 ~ 47 1 / 3 48・49 1 / 2)

の沈線がめぐる。40～49は遺構外から出土した。40は1区検出時に出土した楠葉型瓦器椀。内外面にミガキを施し口縁内面に段をもつ。41は1区検出時に出土した古伊万里の小椀。復元口径9.8cm、復元底径3.8cm、器高5.4cmを測る。外面全体にコンニャク印判を施す。42は1区遺構検出時に出土した陶器の椀。復元口径7.0cm、高台径3.3cm、器高3.2cmを測る。体部全体から高台の一部にかけて褐釉がかかる。41は攪乱から出土した青磁椀。復元口径7.0cm、復元底径3.3cm、器高3.2cmを測る。体部・見込みに片彫文を施す。龍泉窯系青磁椀I-4類。43は1区攪乱から出土した素焼きの土鉢。長さ6.1cm、幅・厚さ5.0cmを測る。44・45は青磁。43は1区で出土した青磁椀。体部から底部にかけて残存し、底径5.9cmを測る。内面見込みは輪状に搔き取り、外面は粗い櫛描文を施す。同安窯系青磁椀。46は2区から出土した青磁椀。体部から底部に掛けて残存し、復元底径5.8cmを測る。47は2区から出土した須恵質の瓦。残存長14.0cm、残存幅8.5cm、厚さ1.9cmを測る。凹面に布目痕、凸に粗い格子目叩きをもつ。48は1区攪乱から出土した石製の水滴。短辺3.3cm、長辺5.3cm、厚さ1.2cmを測る。表面には花が浮き彫りにされ、7輪の花の内中央と右下の花に穴をもつ。裏面は縁に段が作られ、本来は受け部があった模様。裏面の外周は斜線状に線彫りが施される。49は2区から出土した滑石製の錐。長辺7.0cm、最大幅3.9cm、厚さ1.8cmを測る。断面はやや沿っており、内反りの面には縦に3条の線彫りがある。上位に径6mmの孔が1点穿たれる。反対側の面には工具で縱方向に粗く削った調整痕が残る。

#### IV.まとめ

今回の調査では中世後半から近世を中心とした土坑、ピットを検出した。土坑は調査区の南側に比較的集中する。遺物は須恵器、土師器、瓦器、貿易陶磁器、近世陶磁器、瓦、鉄器片、錢などが出士し、遺物の大半は土師器の皿・壺の小片である。多様な遺物が出土しているものの、遺構にともなう遺物はいずれも量が少なく小片を主体としていることから、明確な時期比定が困難な遺構も少なくない。

遺構の時期は中世後半から近世を主体とする。遺物はSK0058で須恵器片小片が出土しており、当該期の遺構は見られないものの、古代の痕跡が見て取れる。貿易陶磁器は11世紀後半から12世紀後半にかけたものが主体をなし、白磁碗IV類、龍泉窯系青磁碗I類が目立つ。また1区遺構検出時には楠葉型瓦器椀の小片が出土している。明確な遺構の初現も同時期と考えられ、当該期の遺物のみが出土した遺構としては、SK0045、SK0118が挙げられる。ついで13世紀後半から14世紀にかけては土師皿・壺と口禿の青磁が出土しており、当該期の遺物が出土した遺構としてSK0015、SP0047が挙げられる。ほぼ全ての遺構から出土する土師器の皿・壺は全て底部が回転糸切りであり、15世紀から16世紀のものを主体とする。遺構も16世紀以降に数が増加し、近世まで同様の傾向が続く。

また、今回の調査で遺構を検出した砂丘面は標高2.8mであり、推定される砂丘鞍部西側斜面の標高2.0～2.5mより高い結果となった。当地は周辺より部分的に高まった場所であったことがうかがえる。



(1) 第100次調査2区全景（西から）



(2) 第100次調査1区全景（西から）



(1) SK0015土層断面（西から）



(2) SK0032土層断面（西から）



(3) SK0059（北から）



(4) SK0058（北東から）



(5) SK0045（西から）



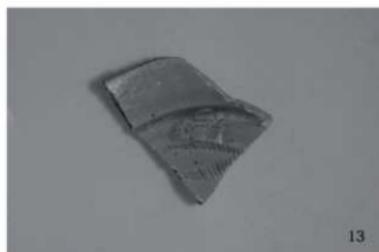
(6) SK0015・0032（南から）



9

10

(7) 遺物①



13



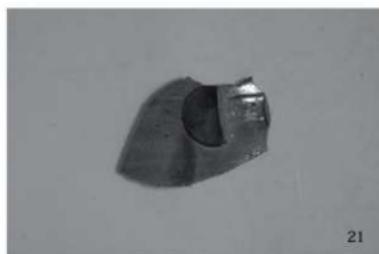
14



16



20



21



22



23・24



26

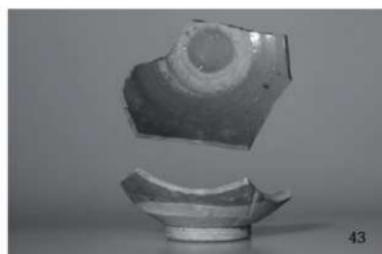
(1) 遺物②



32



42



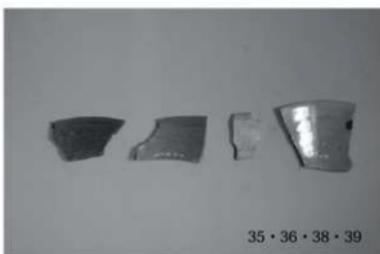
43



44



45



35 • 36 • 38 • 39



48



49

(1) 遺物③

# 報 告 書 抄 錄

ふりがな	はこざき62							
書名	箱崎62							
副書名	—箱崎遺跡第100次調査報告—							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1427集							
編著者名	三浦 悠葵							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8番1号							
発行年月日	2021年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北 緯	東 経	発掘期間	発掘面積 m <sup>2</sup>	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
はこざきいせき 箱崎 遺跡	ふくおかけんふくおかし 福岡県福岡市 ひがしくまいだし 東区馬出5丁目14-3	40131	2639	33° 36' 44"	130° 25' 18"	20190617 ～ 20190730	101.5	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
箱崎 遺跡	集落	中世	柱穴・土壤・溝	土師器・貿易陶磁器・石器				
要約	<p>箱崎遺跡は、博多湾に面した砂丘上に位置する。本調査地は、砂丘の南西側に立地し、鞍部の谷に差し掛かる場所にある。近隣で行われた第1次調査、第37次調査では、12世紀から13世紀を中心とした中世の遺構と貿易陶磁器が出土している。</p> <p>今回の調査では、土壤、柱穴、溝1条のほか、多数のピットを検出した。遺構のは中世前期から後期のものを主体とする。遺物は11世紀から16世紀にかけた白磁、龍泉窯系青磁、土師皿、壺、瓦器碗、石鍋、滑石製石鍬などが出土地した。また、近世の錢や18世紀頃の肥前系陶磁器なども出土している。以上より、本調査地とその周辺地域では、11世紀から12世紀、15世紀から16世紀を中心として、中世前期から近世の集落が形成されていたことが明らかとなった。</p>							

## 箱崎62

—福岡市埋蔵文化財調査報告書第1427集—

令和3年3月25日

発行 福岡市教育委員会  
〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷 工一ス印刷株式会社  
〒810-0052 福岡市中央区大濠1-6-9



